

2024年 セキュリティ&ID業界 カギとなる6つのテーマ

2,600名を超えるセキュリティおよびIT専門家が参加した本年版の調査では、AI（人工知能）、IDaaS（サービスとしてのID）から持続可能性まで、6つの重要なテーマが明らかになりました。世界中のあらゆる企業や組織に劇的な変化をもたらすこれらのトレンドは、セキュリティ&IT部門にも大きく影響します。



1. 多要素認証の普及が進む

多要素認証を導入する理由トップ3

1. サイバーセキュリティの最新化

2. セキュリティインシデントの低減

3. セキュアなリモートアクセス

83%

ゼロトラスト整備の第一歩として多要素認証を既に導入済

「ゼロトラストへのアプローチは多要素認証から始まる。多要素認証はゼロトラストへの道筋の第一歩である。」

—クラウドセキュリティアライアンス(CSA)

59%

ゼロトラストモデルに向けた取り組みを実施中



2. モバイルID - セキュリティ用途での活用が増加

「モバイルID認証によってセキュアに簡素化できるサービスは無数にある。決済、政府ID、入退室を含むアクセス制御といった用途は、それらのほんの始まりであろう。」

—セキュアテクノロジーアライアンス



2/3

何らかの形でモバイルIDを運用中

79%

今後5年以内に何らかの形でモバイルIDの導入を計画

一方、写真付きの物理IDカードが必要な業界も存在：



医療・ヘルスケア



ホスピタリティ



輸送



政府



3. 持続可能性 - ビジネス意思決定における重要度がさらに高まる

56%

持続可能性は2024年のトップトレンド

74%

持続可能性の重要性が過去1年で高まった

43%

企業で持続可能ルールを運用中

① ② ③ ④ ⑤

ビジネスにおいて持続可能性の優先度の高さは継続する。回答者が示した持続可能性の重要度は、5段階評価（5が最も高い）の4。



4. 生体認証 - 勢いが継続

39%

Sler等システム業者の回答、顧客先で指紋もしくは掌紋認証を運用中

30%

顔認証を運用中

22%

今後5年の間に生体認証の試験または導入を計画

BIOMETRICUPDATE.COM の記事によると、航空産業向けIT企業のSITA社は、2025年までに世界の空港の63%



5. ID管理のクラウド化



48%

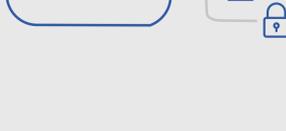
クラウドベースのID管理サービス (IDaaS) を利用中もしくは導入を計画

ID管理
クラウド化の
ハードル
トップ3

レガシー/オンプレミス機器に対する高い信頼

予算不足

ビジネス上優先度が低い



6. AI (人工知能) 分析の到来

91%

AIに対する認識が好意的もしくは中立

22%

現在、脅威の検知&予測の精度最適化にAIを利用

44%

セキュリティの分析にAIを利用

「カメラやオーディオ機器などからリアルタイムで供給される映像監視データをAIによるアルゴリズムを用いて分析することで、潜在的な脅威に対して瞬時または自動的な対応が可能になる。」

— SecurityToday.com記事

企業や組織では、物理的なスペース、デジタルIDと資産を保護するための懸命な取り組みが行われていますが、これら6つの各トレンドがもたらす変化とのバランスを取っていくことが重要です。変化の先を行くには、新技術の導入だけでなく、リスクを軽減し、進化し続ける脅威を防ぐための積極的かつ適応性に富んだアプローチが求められます。